

結核患者発生に伴う

Quanti FERON TB-2Gの
活用について

宮崎県小林保健所
発表者 中原加恵

はじめに

全血インターフェロン γ 応答測定法 QuantiFERON TB-2G (QFT) を用いて定期外健診を実施し、その効果について考察した。

患者の概要

17歳男性、

b I 1、喀痰塗抹陽性（G8号）

- H16年11月初旬から咳嗽、喀痰出現
- H17年5月末、発熱等出現、状態悪化
- 感染危険度
 最重要（56=8（号）×7（ヶ月））
- 集団生活者

定期外健診の実施方法

厚労省のガイドラインに沿って、定期外健診を実施し、そのうち予防内服対象となった者についてQFT検査を併せて実施した。

定期外健診対象者

平成16年11月から平成17年5月
に患者と一緒に集団生活をしていた

218名

小林保健所実施分

- ・胸部レントゲン検査 157名
- ・ツ反応検査 (29歳以下) 112名
- ・QFT検査 54名

(ガイドラインによる予防内服対象者)

結果①

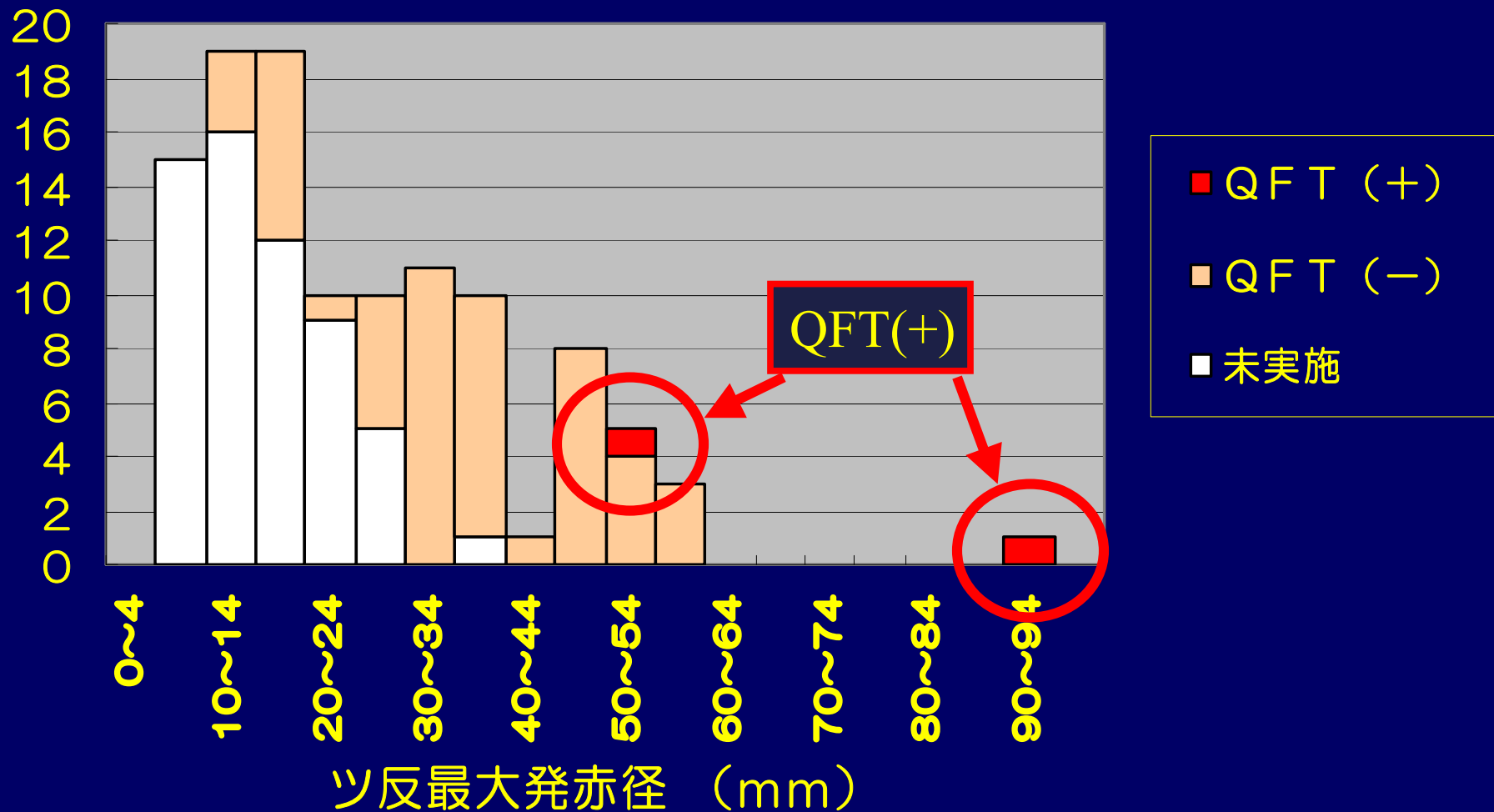
直後健診結果

ツ反応検査				QFT検査		
対象者	受診者	予防内服予定者		対象者	受診者	陽性者 (予防内服者)
		BCGあり	BCGなし			
112	111	30mm以上	10mm以上	54	53	2

ツ反発赤径とQFT結果の関係

(直後健診111名)

人



結果②

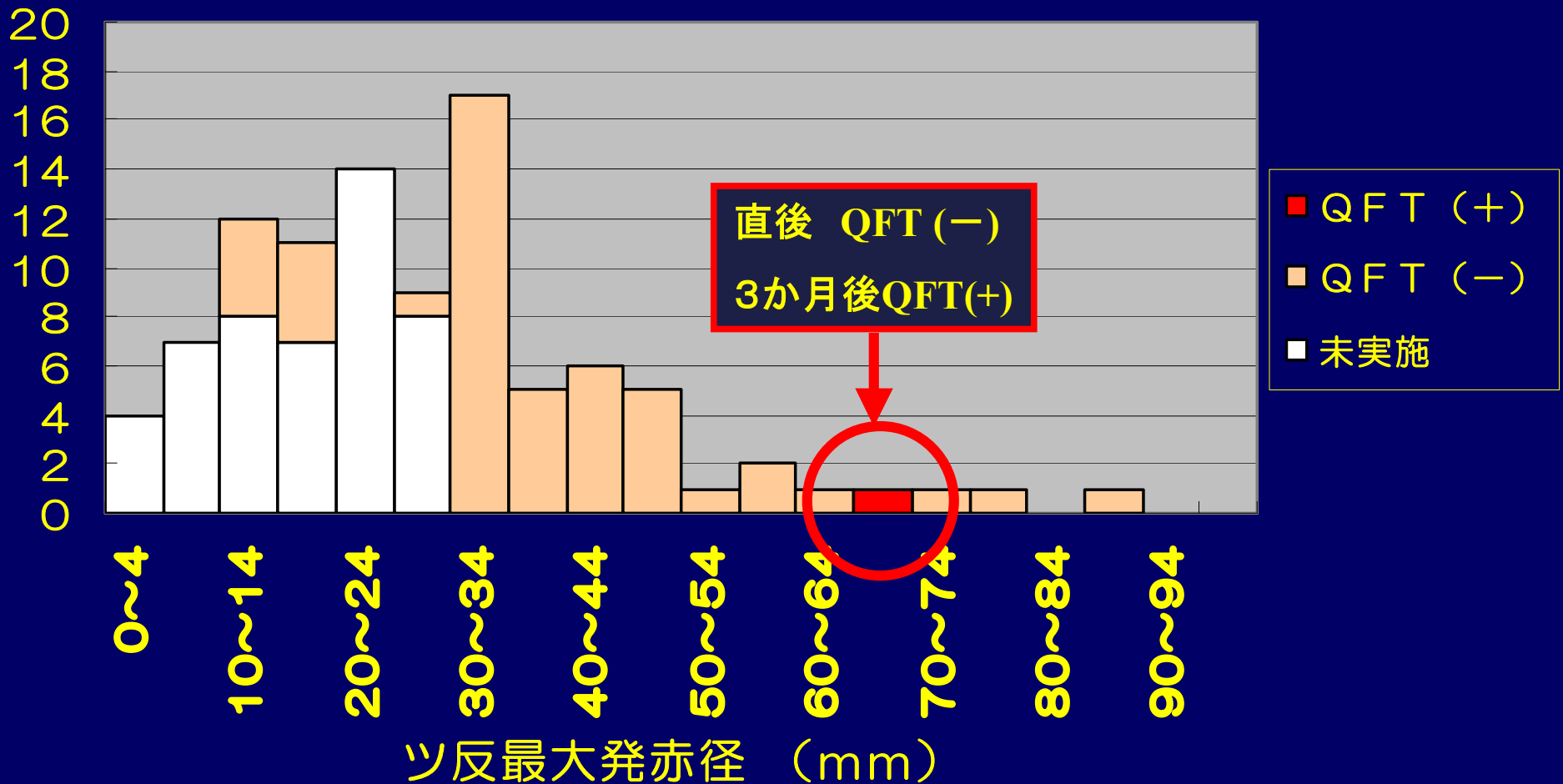
3ヶ月後健診結果

ツ反応検査				QFT検査		
対象者	受診者	予防内服予定者		対象者	受診者	陽性者
		BCGあり	BCGなし	(ツ反未接種・未判定の6名を含む)		(予防内服者)
		30mm以上	10mm以上			
104	98	29	21	56	54	1

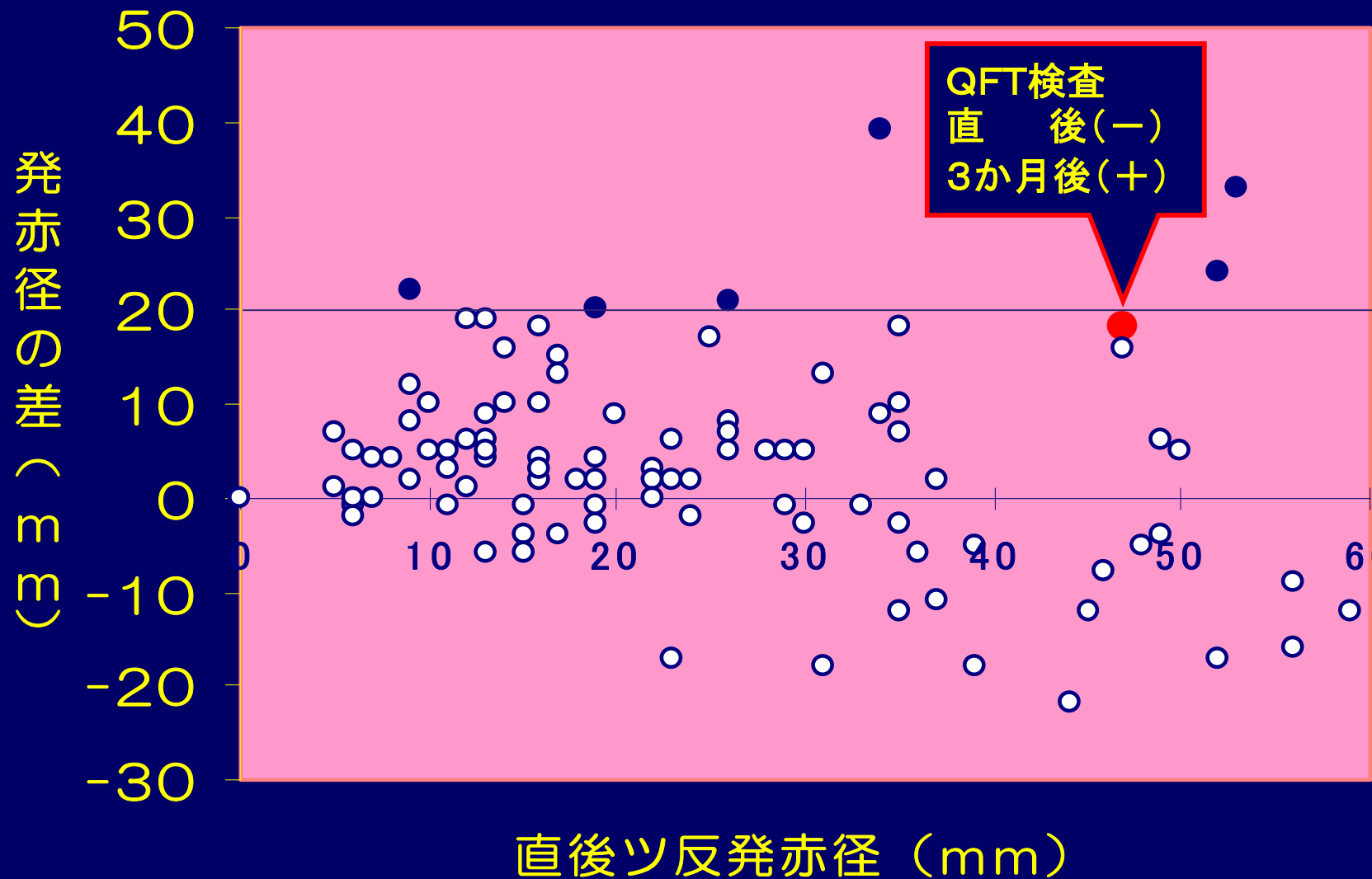
ツ反発赤径とQFT結果の関係

(3か月後健診98名)

人

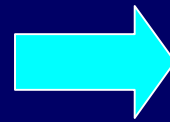


直後・3か月後ツ反発赤径の差



考察①

予防内服対象
54名



QFT検査(一)
51名

QFT検査の導入は、予防内服者だけでなく初発患者や社会的にも大きなメリットがあると考えられる。

考察②

ツ反応検査で直後・3か月後での発赤径拡大が20mm未満であった者のうち1名がQFT検査陽性を示したことは、感染者を見逃していた可能性を示唆しており、QFT検査の有用性を証するものと考えられる。

まとめ

今回、QFT検査を取り入れることで、予防内服者を絞ることができたが、QFT検査は、実施時期や対象者の選定方法等、まだ明確でない部分が多いので、早期に適応基準等が確立され、より多く活用されるよう体制整備が望まれる。